



## 第 23 号

平成22年(2010年)9月25日(土)発行  
発行元:みやげじま『風の家』  
発行責任者:坂上 幸一郎  
東京都三宅島三宅村阿古532-1  
(社団法人 日本建築学会三宅島研修所併付)  
電話:04994-5-1470 FAX:04994-5-1471  
E-mail:miyake\_kaze@dolphin.ocn.ne.jp

みやげじま『風の家』でくりかえされる日常の中、人と人との間に灯される「やさしさ」を切り取っています。

多くの人が“やさしく なかよく”つながっていることの大切さ。

ただそれだけを見つめて…

## 帰島5周年記念「感謝と交流のつとめ」が開催されました

!(^)! あらためて、心をこめて「ありがとうございます」

9月4日(土曜日)、5日(日曜日)二日間にかけて行われた『帰島5周年記念“感謝と交流のつとめ”(主催:三宅村)』は、ご招待いただいた150名を超える方々をお招きし、最高のお天気中とても盛大に開催されました。

旧三宅島災害・東京ボランティア支援センターからも、避難期間中に開催されてきた『三宅島島民ふれあい集会』にご協力頂いた団体を中心に52名の方々が来島されました。



式典前に行われた『風の家』での『交流会』では、島民も一緒に過ごすことができました。

この10年を振り返る中で、赤い帽子をかぶった懐かしい方々との再会がありました。また、初めて三宅島にお出でになった方々との良い出会いの機会となりました。

東京災害ボランティアネットワーク代表の山崎美貴子様からは、これまでの三宅島噴火災害支援を振り返り「多様な団体が手をつないで歩んできた10年間」との言葉と共に、連携の大切さについて話されました。また、三宅島社会福祉協議会寺本会長もお出でいただき、この間の支援に対する心からのお礼の言葉もいただきました。

改めて、たくさんの方々に支えていただいた10年間であったことを感じました。そして、人と人が支えあうということの大切さを思う日となりました。





## みやげじま『風の家』 聴きみみ

平成 12 年夏の噴火災害。それから 10 年たった今年、“感謝と交流のつどい”を開催する日を迎えました。

『風の家』でもこの 10 年を振り返る会話が折々に話されています。

避難していた団地でお世話になった方々への思いや、いつか島に遊びに来てくれたら・・・という期待の声もあります。つい昨日のことのようにハッキリと思い出される出来事の一つ一つは、すべて出会った人たちとの間での思い出ばかり。あの人は元気にしているのかなあ？と想いは尽きません。

たくさんの出会いがありましたね。そして、たくさんの辛くさびしい思いもありました。

私たちにとってのこの 10 年は、決して忘れることはない、とても特別な時間に感じます。



度々言われてきた「復興」という言葉があります。この5年間その真ただ中であつた私たちの三宅島は、本当にたくさんの方々のご支援によって支え続けられてきた5年間でした。“火山ガスとの共生”“観光”“高齢化”“産業振興”“医療”“教育”“航空交通”など様々な課題に対しても急速に歩んできた5年間でした。

これからの道のりを思う時、“感謝と交流のつどい”に向けられた、島にくらす人たちの“エネルギー”と“熱”は確かに未来へつながっていく力を感しました。島の皆で創り出したこの新しい“記憶”を胸に、三宅島にくらす私たちが手をつないで『希望』をもって歩いていきましょう！

そしてこの『希望』を、未来につなげていきたいと願っています。



(^o^) どうぞお気軽にお出で下さい

『風の家』では、「ボランティア」としてご一緒していただける方を、お待ちしております。

『風の家』での約束事は「やさしく」そして「仲良く」です。

目には決して見えないものですが、きっと人と人との良い出会いは、「くらし」の中でとても大切なものだから・・・

ぜひ、お気軽にお声かけください。



“みやげじま『風の家』だより “に関するご意見・お問合せは、上記までご連絡ください